

北海道原子力防災総合訓練

「一時移転避難・放射性物質の除染を実施！」

北海道電力泊発電所の事故による原子力災害を想定した訓練が、10月31日に、国や道、積丹町を含む泊発電所から30km圏内にある後志管内13町村で実施されました。

発電所3号機の原子炉の冷却が不能となり放射性物質が放出。積丹町が一時移転避難の対象地域となった想定で行われました。

や道の機関がテレビ会議で繋がれ、避難状況の報告や国・道への要請事項の伝達訓練を行いました。

北海道の『想定訓練』

新型コロナウイルス感染拡大下で、後志地方西部を震源とする最大震度6強の地震が発生。泊

意思決定訓練

共和町のオフサイトセンターで、一時移転実施方針を決定する意思決定訓練が行われ、町村の災害対策本部と国

町民31名が実動訓練参加

IP告知端末機・屋外拡声器、緊急速報メール、広報車による屋内退避指示や一時移転指示が行われ、外国人への英語による情報発信も行われ

ました。

町民の一時移転指示により、札幌市へ避難する想定で、余市町の農道離着陸場で避難退域時検査訓練が行われ、避難用バスや乗客の衣類・身体に放射性物質が付着していないか検査し、結果に応じて除染措置が行われ、検査通行証を受け取りました。

美国港では、地震の影響により孤立した美国地区の町民を救出するため、小樽海上保安部の巡視艇「すずかぜ」（26t）による船舶実動訓練（美国港く余市港間）が行われま

した。

災害への備えは家庭から

参加者からは、「原子力災害についてある程度理解できましたが、実際に発生した場合はしっかり行動できるか不安です。」などの感想が聞かれました。

自然災害は、いつ発生するか分かりません。災害が発生したとき、どこに・どのように避難するのか、「自らの身は自ら守る」ため、日頃からハザードマップで家庭での確かめ合いをしましょう。



▲感染症対策の徹底を図り、訓練を実施（総合文化センター）



▲屋内退避受付と安定ヨウ素剤の緊急配布訓練（総合文化センター）



▲一時移転決定に伴い、バスで避難



▲避難退域時検査訓練（余市町）



▲孤立住民救出訓練（美国港）

＝ 町民の安心へ、11月15日着任 / 7人の余市協会病院派遣医に感謝 ＝

町立診療所に平田^{ひらた}翔^{つばさ}医師(36歳)が着任

～町民の皆さんの“医療”と“健康”のお役に立ちたい！～



平田医師の略歴

S 61年 10月 愛媛県松山市出身(36歳)
 H 24年 3月 札幌医科大学 卒業
 H 26年 4月 札幌医科大学付属病院 勤務
 H 27年 4月 医療法人社団 明生会
 イムス札幌消化器中央総合病院
 消化器内科 勤務
 R 4年 10月末 同病院を退職
 家族：奥様と長男の3人家族(札幌市中央区)

6月30日、高橋 壯之祐医師が退任。7月1日から5カ月間、余市協会病院の7人の臨時派遣医師の方々に、当町の医療を守っていただきました。

7人の医師は、佐野 道朗、住田 臣造、石橋 和幸、矢崎 弘志、藏前 太郎、三井 潤、岡田 善郎の各先生でした。余市協会病院の吉田院長や同院の皆様にご感謝します。

はじめまして。このたび積丹町立国保診療所の医師に就任しました、平田 翔と申します。

これまで私は札幌市で消化器内科の診療にあたってまいりましたが、救急では軽度外傷の処置を行う機会も多く、また日々の外来ではみなさんの「病気が心配」、「食事について」、「眠れない」、「薬を減らせないか」、「家族の介護が大変」、「施設に入るかどうか」などのご相談に乗ることも多かったように思います。

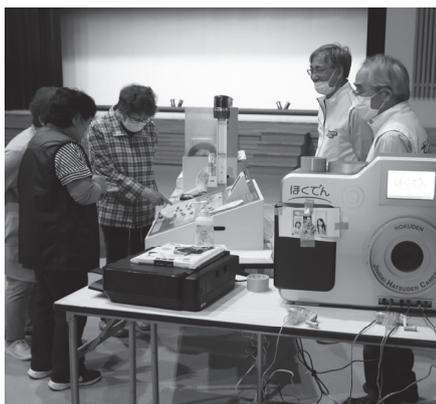
ここ積丹町でも、基本的な診療は当然のことながら、町民の皆さんのご相談をお寄せいただきたいと考えております。

診療所の外来をみなさんに広く開かれたものにしたと考えておりますので、お気軽に受診していただければと思います。

私と積丹町のゆかりを少しばかり。私はルアーでの魚釣り(磯釣り)が趣味で、ソイ、イカ、ヒラメ、マス、アキアジ、ブリなどを目当てに、これまで何度もお邪魔しておりました。



第52回積丹町文化祭展示の部(主管・文化祭実行委員会・河岸 悟郎委員長)が、総合文化センターで催されました。展示の部は11月2日から4日まで行われ、保育園児や小学生、町内文化団体や一般町民の方々から出品された書道や絵画、陶芸など計309点の作品が展示され、期間中306名の方々が参観に訪れました。



また、文化祭と併せて、北海道電力㈱の「ほくてんエネルギーバン」と、昨年更新したIP電話機の「操作体験会」が行われました。



第52回 積丹町文化祭

展示の部

